

護衛艦の横浜港・大さん橋入港決定に抗議し、撤回を求める声明

7月18日から26日まで開催される「海フェスタよこはま2009」実行委員会(国土交通省、横浜市、横浜港振興協会などで構成)は、7月25、26の両日、海上自衛隊のイージス護衛艦「きりしま」が、大さん橋に接岸し、一般公開されると発表した。

海フェスタは、毎年、海の日(7月17日)の3連休を中心に国内港湾の持ち回りで開催されているが、昨年の「海フェスタいわて」で、初めて護衛艦が大船渡港に入港し、一般公開された。これが前例とでもいうように、横浜の最大の観光地のひとつであり、子どもから高齢者まで、多くの市民でにぎわう大さん橋で一般公開するというのだ。

すでに5月には、メキシコ帆船のホストシップと称して、「しらゆき」が護衛艦としては初めて新港ふ頭に接岸し、一般公開が行われていた。大方の市民の知らないうちに、市民の共有財産である横浜港への軍艦入港が、既成事実化されていたことになる。とりわけ今回、横浜港のシンボルであり、民間の客船専用ふ頭である大さん橋に接岸、公開することは、米軍による全面接収という苦しみ乗り越え、民間港として繁栄してきた戦後の横浜港の歴史に汚点を残す暴挙と言わざるを得ない。

自衛隊は、海外派遣が常態化する中、一般市民に向け、その存在をアピールするための活動を強めており、軍服姿や軍用車両などを市民社会の中で見かける機会が増えている。しかし、軍隊が市民社会に侵出する社会がどのようになるか、これまでの歴史が教えてくれている。

また、これまでの米海軍の国内民間港への入港の状況を考えると、護衛艦入港という事実に着目し、米軍大型軍艦の「友好訪問」という名の入港を、横浜港に対しても申し入れる可能性が十分にある。万が一米軍艦の大さん橋入港を認めたならば、横浜市は、接収され続けているノースドック返還という市民の悲願に水を差すだけでなく、世界の各地で戦争し続ける米軍に加担することとなる。

港湾管理者であり、今回のフェスタの主催者の一員でもある横浜市が、大さん橋への軍艦の寄港を認めることは、民間港湾としての横浜港の位置づけを大きく変質させ、平時、有事に関わりなく、いつでも軍港として利用できる態勢を認めたことになる。もし、護衛艦に加えて米軍艦の寄港を認めることにでもなれば、ノースドックを越えて、横浜港全体が日米軍事同盟に強力に組み込まれることになる。歯止めを無くした軍艦の横浜港利用は、今後も際限なく続くだろう。

私たちは、軍艦の横浜港入港決定に強く抗議するとともに、ただちに撤回を求める。

- ・ 中田横浜市長は護衛艦の大さん橋入港容認を撤回し、自衛隊、米軍を問わず、一切の軍艦の入港を認めるな！！
- ・ 「海フェスタ」主催者は、自衛隊のPRに協力するな！！
- ・ 防衛省、自衛隊は大さん橋への護衛艦入港、一般公開、救難ヘリによる山下公園前展示訓練を撤回し、今後、一切民間港への入港を行うな！！
- ・ 米軍は、「友好訪問」という名の民間港への強行入港を中止せよ！！

2009年7月11日

沖縄の自立解放闘争に連帯し反安保を闘う連続講座

09連続講座第1回「1972 復帰=再併合を問う」参加者一同